Stoli、米国事業を再開 第11章再建手続きの和解で出荷再開へ

Stoliは保税倉庫の在庫を活用し、Empire MerchantsやJohnson Brothersなどを通じて米国での販売再開を目指す。

2026年11月10日（火）



Stoli Groupは11月9日月曜日、連邦破産法第11章に基づく再建手続きを完了し、米国子会社の債権者と和解したことで、米国での事業を再開したと発表した。同社によると、この和解により製品出荷の再開と、重要市場での販売網の再構築が可能になる。

ルクセンブルクに拠点を置く酒類メーカーは、この合意により、Stoli Group (USA)の販売権を巡る過去の紛争が解決し、残る在庫と財務上の債務にも対処できると説明した。Stoliは和解の金銭的条件を明らかにせず、関係する債権者も特定していない。

同社は、既存の卸売パートナーであるニューヨークのEmpire MerchantsやJohnson Brothersと連携

する中で、MHW Ltd.が輸入者となると発表した。また、ほかの販売代理店とも協議中で、契約がまとまり次第、追加情報を公表する予定だという。

Stoliによると、米国の保税倉庫にはすでに在庫があり、販売再開に伴い、対象市場で販売代理店からの注文への対応を始められる見込みだ。同社は再建手続き後、全米で安定した長期的な事業基盤を再確立することを当面の目標に掲げている。

米国の飲料市場にとって、この合意は一つのブランドが店頭に戻る以上の影響をもたらす可能性がある。販売権、未販売在庫、支払い義務を整理すれば、世界最大級の酒類市場の一つで製品へのアクセスが再び可能になり、卸売業者や小売業者の不確実性が軽減されるほか、ウォッカ、テキーラ、ウイスキー、ラムなどのカテゴリーで供給が回復する可能性がある。

Stoliによると、米国での製品ラインアップは従来より幅広くなる。Stoli vodkaとelit vodkaに加え、Moskovskaya vodka、Rooster Rojo tequila、KAH tequila、The Irishman Irish whiskey、Writers' Tears Irish whiskeyの5製品を米国向けラインアップに加える。また、ルイジアナ州ラクシンで製造されるBayou Rumも、液体、パッケージ、価格を刷新して再投入するという。

新たなラインアップからは、単一の主力ブランドではなく、ポートフォリオ戦略に依存する傾向が強まる市場で、顧客層の拡大を図る同社の姿勢がうかがえる。販売代理店にとっては、同じ取引先との関係を通じて、より多くの製品を販売できる可能性がある。Stoliにとっては、米国事業が裁判所の監督下での再建手続きに縛られていた期間を経て、店頭やバーでの取り扱いを取り戻す手段となり得る。

Stoli Groupの最高商務責任者、Marina Troyanovskaya氏は声明で、すでに米国内にある製品と、自社ブランドを熟知する長年のパートナーを活用すると述べた。また、米国での新たなキャンペーンに向け、営業チームとマーケティングチームが準備を進めているという。

Stoliは、Stoliのフレーバーウォッカと、新たなノンアルコールミキサー「Stoli Ginger Beer」の米国内生産も検討していると明らかにした。計画はまだ確定していないが、現地事業を拡大し、フレーバー付き酒類と、ノンアルコールまたは低アルコールに関連する製品への需要を取り込もうとする動きを示している。

同社によると、Stoli Groupは170社を超える販売代理店のネットワークを通じて、95カ国以上でブランドを展開している。幅広い製品ポートフォリオには、酒類、ワイン、ノンアルコール飲料が含まれる。ただし米国では、法的・財務的な再出発を販売の勢いにつなげるため、安定供給を迅速に回復し、州・地域ごとに十分な販売契約を確保できるかが当面の試金石となる。